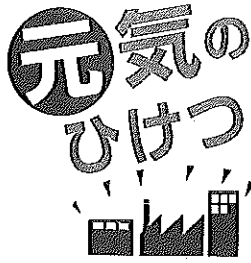


発明家のDNA原点に



肌診断機を開発

化粧品カウンターに行くと、店員が肌診断機を客の顔にあてている光景をよく目にする。水分や皮脂、きめの状態などがデータで出るので、客は自分の肌の状態が科学的に分かる。きれいにしたい女性の心をつかむツールだ。

日本システム研究所

肌診断機は1982年、川崎市中原区の日本システム研究所が開発した。手がけたのは松下幸夫社長(41)の父親。ワイヤメモリーなどの半導体を開発した発明家で、大学で研究をしながら「世の役に立つものを作りた」と、同社の前身を68年に立ち上げた。大学発ベンチャーの先駆けとなる。設立当初は通産省(当時)や大手企業の研究委託を受けて、電気材料の基礎的な開発をする「裏方」の会社だった。

82年、大手化粧品会社から「従来と違う切り口で勝負できる製品はないか」と話が来たことが会社の転機となる。「冬の子供の肌は表面は乾燥しているように見えて内側が潤っている。肌への電気の通りやすさを内側も計れば肌の水分量がわかるのでは」と開発したのが肌診断機だ。85年に特許取得。その後も弾力や血流などが測定できるよう改良を重ね、化粧品カウンターでは肌診断機があれば客が集まってきた。

松下幸夫社長



感性を科学の力で数値化

人間の五感で感じるものを、科学の力で数値化する商品を作る会社です。肌の状態やウメの熟度、缶コーヒーが不良品かどうか、これまで人間の経験と勘に頼って判断していたものを、センサーとして色々開発してきました。技術的裏付けに基づいた、動物や人間の「感性を科学する」本物志向の会社と自負しています。「なるほどそういうものがあつたのか」とユーザーが喜び、私たちも楽しんで利益が出るものを、従来の発想を超えて汗をかいて作りたいと思います。センサーやサービス開発のご相談を承ります。

1968年に(株)日本電材工業研究所を設立。88年に社名変更。資本金5千万円、従業員12人。2013年3月期売上高は2億2170万円で約1千万円の黒字。09年11月から松下幸夫社長が父の跡を継ぐ。検査システムや光学センサーの開発・販売を手掛ける。

(北崎礼子)

つき、回答時点で就労している人が47%だった。センターは7割が相談行

動をとったことを「次の動きにつなげるきっかけになった」と分析。半数が就労

を続けていたことも予想より多かったという。一方で次の段階に踏み出せない人

も多い。担当者は「就労体験の職種を広げ、個別相談

のフォローを充実させるよう努めたい」と話している。(古沢範英)

全日写連 県本部5月例会 自由部門



ナー604ミーティングルーム(横浜駅西口)。相続税や贈与の基礎知識、遺言書の書き方などについて税理士の近藤伸一さんが話す。無料。30人。要予約(先着)。☎遺言NPO(045・263・495)。

◆横浜大空襲を語るつどい

31日(日)、図1時半～4時、横浜市中区本郷町2丁目の上台集会所(山手駅からバス)。元県立横浜平沼高教諭の旨倉一雄さんによる「子どもたちとともに語り継ぐ平和と戦争」と題した講演や写真の展示、ジャズの演奏など。00円。当日先着90人。☎本牧山手九の会(045・641・3991)。

◆小児アレルギー・ぜんそく講演会

6月1日(日)、図0時半～4時、相模原市南区相模大野2丁目のコミュニティ